



片柳中学校だより

片柳

第7号 令和7年9月26日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

未来を守る 今日の準備、人とのつながり

校長 佐久間 貴宏

大正12年(1923年)9月1日に発生した関東大震災は、死者・行方不明者が10万5千人を超える未曾有の大災害となりました。この震災の教訓をもとに、9月1日は「防災の日」として制定され、一人ひとりが防災意識を高めることの重要性が広く呼びかけられています。また、台風の襲来や前線の影響による集中豪雨などの災害も想定されることから、9月は「防災月間」と位置づけられ、全国の自治体でさまざまな取り組みが行われています。

さて、今年の9月を振り返ると、異常ともいえる暑さが続きました。最近になってようやく過ごしやすさを感じるようになりましたが、ゲリラ豪雨や線状降水帯による被害への不安も拭えません。自然災害の多い日本においては、事前の準備と正しい知識を持つことが、命を守るうえで非常に重要です。突然の地震、想定を超える豪雨、川の氾濫を引き起こす台風など、私たちの生活は常に自然の脅威と隣り合わせです。だからこそ、「事前の備え」が何よりも大切だと考えます。

首相官邸のホームページには、防災に関するわかりやすい情報が掲載されています。以下のような項目について、皆さんは準備できているでしょうか？

- (1) 家具の配置や固定など、転倒防止の工夫をしていますか？
- (2) 食料や飲料水の備蓄は十分ですか？
- (3) 非常用持ち出しバッグの準備はできていますか？
- (4) 家族間での安否確認の方法は決まっていますか？
- (5) 避難場所や避難経路を確認していますか？

これらの内容は多くの場面で紹介されており、「すでに知っている」「もう準備しているから大丈夫」と思われる方も多いかもかもしれません。しかし、改めて確認し、見直すことが大切です。たとえば、「家具の転倒防止対策をする」「1人1日3リットル、3日分の水を備蓄する」「3日分の食料を準備する」「非常時に必要な物をまとめたバッグを用意する」など、基本的な備えが命を守ることに繋がります。

また、防災の考え方には「自助」「共助」「公助」の3つがあります。「自助」は自分や家族の命を守ること、「共助」は地域やコミュニティで助け合うこと、「公助」は市町村や消防、警察、自衛隊などの公的機関による支援です。大規模な地震では、発生直後の建物倒壊や家具の転倒による被害が多く、東日本大震災では津波が短時間で襲来しました。こうした状況下で命を守るためには、「自助」と「共助」が不可欠です。「公助」だけでは、被害が広範囲に及んだ場合、対応が追いつかないこともあります。

片柳中学校の生徒の皆さんは、日頃から地域のボランティア活動やお祭りなどに積極的に参加してくれています。災害時に人を救うのは、まさに人となりのつながりです。地域とつながる片柳中の生徒たちが、いざというときに周囲を助けるヒーローとなってくれることを、心から期待しています。